

昭和60年度 城館跡等の所在確認調査
 昭和61年度 重要度の高いもの100か所程度を選び、
 2次調査と略測図を作成
 昭和62年度 報告書の刊行
 専門調査員 県文化財保護審議会委員
 安田 初雄
 同 小林 清二
 東北学院大学教授 大石 直正

県考古学会副会長 馬 目 順

④ 文化財指定調査
 歴史的、学術的な価値を有する文化財は数多く存在するが、その中から重要なものを選び、指定のための調査を実施し、県文化財保護審議会の答申に基づき、昭和62年3月27日付をもって指定した。
 指定した文化財は、次のとおりである。

種 別	名 称	員 数	所 在 地	所 有 者
重要文化財(建造物)	旧阿部家住宅	1棟	福島市上名倉字大石前	福島市
" (工芸品)	大名家婚礼調度等	72点	福島市民家園	同慶寺
" (")	常滑大壺	1口	相馬郡小高町小高字上広畑246番地	飯野八幡宮
" (歴史資料)	白河・石川・岩瀬 田村・安積・安達 六郡絵図	1張	いわき市平字八幡小路84番地	須賀川市
" (考古資料)	丈龍私印	1顆	須賀川市池上町6番地 須賀川市立博物館	須賀川市
" (")	八幡横穴群出土品	1括	岩瀬郡天栄村大字下松本 字原畑78番地	天栄村
重要有形民俗文化財	旧修験岩崎家所蔵修験資料	410点	いわき市平字堂根町1番地4号 いわき市文化センター	いわき市
"	旧修験川島家所蔵修験資料	65点	相馬市小泉字根岸424番地	岩崎敏夫
"	旧修験高橋家所蔵修験資料	241点	南会津郡田島町川島 字川島平1918番地	川島弘
重要無形民俗文化財 (風俗慣習)	大滝神社の浜下り行事		耶麻郡西会津町奥川大字大綱木 字反口1634番地	高橋福江
" (芸能)	下柴の彼岸獅子		双葉郡檜葉町上小字字宮平1番地	大滝神社浜下り 神事保存会
" (芸能)	二本松の祭り囃子		喜多方市関柴町下柴	下柴獅子団
史 跡	本屋敷古墳群		二本松市本町二丁目	二本松提燈祭 祭礼囃子保存会
"	窪田遺跡		双葉郡浪江町大字1番1号 北幾世橋字伊織廻1番5号	明治卓也 明治一夫
史跡及び名勝	旧梁川亀岡八幡宮並びに別当寺境域		南会津郡只見町大字大倉	只見町
"	専称寺境域		伊達郡梁川町大字八幡字堂庭	八幡神社龍宝寺 ほか
重要文化財(附指定)	旧渡部家住宅墨書板	1枚	いわき市平山崎字梅福山	専称寺ほか
			双葉郡浪江町大字北幾世橋 字北原6番地	大聖寺

3 埋蔵文化財の保存の充実

(1) 埋蔵文化財調査体制

県土の開発進展に伴い、開発側との事前協議が増加しており、同時に遺跡の保護保存に対する県民の関心も高まっている。発掘調査体制も年々強化されており、(財)福島県文化センター遺跡調査課においては逐次定員増を図ってきた。本年度新たに4名増となり、現在採用職員25名(内嘱託8名)、県教委出向職員19名、計44名である。

〔(財)福島県文化センター遺跡調査課職員数〕

年度	54	55	56	57	58	59	60	61
人員	15名	20名	23名	26名	26名	30名	40名	44名

(2) 開発事業地内遺跡の保護対策

大規模開発事業地内の遺跡の保護は、(イ)遺跡の所在範囲、性格などを明らかにする(分布調査)。(ロ)工事等で遺跡が破壊されないように起業者と保護対策を協議する(事前協議)。(ハ)工事実施上止むを得ず遺跡の現状が失われる場合には、事前に発掘調査を行い記録として保存し、報告書を刊行する(発掘調査)という三段階がとられる。

ア 分布調査

開発地内の詳細分布調査を行い、遺跡の保存対策の資料とするもので、表面調査と試掘調査に分けられる。

試掘調査は、国営母畑事業区内27遺跡、国営矢吹事業区内6遺跡、福島空港予定地内8遺跡、相馬開発事業区内8遺跡の計49遺跡について実施した。

イ 開発関係機関との保存協議

前年度からの継続協議を含め、次の諸機関と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。